

伊藤直道編述
新小學作文全書
尋常科用
卷之八

函架二二
四號
八册

506

K12142
14
8

K121.82

14

8

滋賀縣尋常中學校教諭伊藤直道編述

新小學作文全書

尋常科用
卷之八

熊谷久榮堂發兌

新小學作文全書卷八目次

第四年後半期

漢字交リ文第十二

漢字交リ文第十三

漢字交リ文第十四

口上書類第十五

口上書類第十六

選
口上書類第十七

日用書類第六

日用書類第七

日用書類第八

日用書類第九

日用書類第十

選
新小學作文全書卷八

長野 伊藤直道編述

第四年後半期

漢字交リ文第十二

○帽

帽ハ頭ニ冠ル多クハ羅紗ニテ製シ又
麥稈ニテ作ル若頭ヲ日光ニ暴ストキ

ハ大ニ養生ニ害アリ。

○靴

靴ハ足ニ穿クモノニシテ獸皮ニテ製ス近來洋服流行スルヲ以人多ク之ヲ用ユ。

○煙草

煙草ハ煙ヲ吸引ス其製種々アリ皆煙

草ノ葉ヲ乾シテ製シタルモノナリ多ク嗜ムルハ健康ヲ害ス。

○窓

窓ハ日光ヲ取り又ハ空氣流通ノタメ設ケタルモノニシテ其形狀大小種々アリ戸又ハ障子ヲ入レテ開閉ニ便ナラシム。

○書架

書架ハ室内ニ置キ書物ヲ載スル架ニシテ大小形狀一ナラズ其飾ヲ設ケタルモノハ甚美麗ナリ。

○洋燈

洋燈ハ硝子ニテ造リ其形狀製作一ナラズ石炭油ヲ燈シ夜ヲ照ス其光り明

カニシテ恰畫ノ如シ。

漢字交り文第十三

○薔薇

薔薇ハ四季花ヲ開キ美麗ニシテ其種類甚多シ之ヲ庭園ニ培養スレバ愛玩スルニ足ル。

○椿

椿ハ春花ヲ開キ美麗ニシテ品類數多
アリ多ク庭園ニ植ユ山野ニアルハ其
花單瓣ニシテ赤色ナリ。

○柿

柿ハ秋ニ至リテ熟ス種類甚多ク其味
甘キモノナリト雖其熟セザルモノハ
色青ク味澀シ又一種澀柿アリ澀汁ト

ナシテ使用スベシ。

○葡萄

葡萄ニ數種アリテ味甚美ナリ又醸造
シテ酒トナス之ヲ葡萄酒ト云フ其味
佳良ニシテ滋養ノ効アリ。

○蝙蝠

蝙蝠ハ廢屋又ハ大樹ノ朽孔ニ棲ミ翅

アリ黄昏ヨリ出デ、ヨク空中ヲ飛行ス其形鼠ニ類ス。

○蜂

蜂ニ數種アリ皆刺劔アリテ人ヲ刺ス一種蜜蜂アリ人家ノ軒等ニ巢ヲ作り時々群ヲナシテ飛行シ草木ノ花ニ遊ビテ花蕊ヲ食フ。

○蟻

蟻ハ小キ虫ニシテ種類甚多シ夏日地上ニ群集シ食物ヲ需メ終日怠ルコトナシ皆穴中ニ運ビ之ヲ貯ヘテ冬日ノ食用トナス。

○蝶

蝶ハ小虫ノ化生シタルモノニシテ皆

羽アリヨク空中ニ舞ヒ春日暖和本ノ時
草木ノ花ニ戯レ人目ヲ慰ムルコトアリ。

漢字交り文第十四

○村

人ノ集合シタル所ヲ村ト云フ多クハ
農業ヲナシテ米麥野菜等ノ耕作ニ從

事ス。

○町

家屋ノ構造美麗ニシテ家々軒ヲ竝ベ
街衢端正往來繁盛ナル所ヲ町ト云フ
多クハ商業ニ從事シテ種々ノ物品ヲ
賣買ス。

○港

海水ノ陸地ニ入り最深クシテ舟ヲ船
スルニ便ナル所ヲ港ト云フ何レモ陸
上ニ町アリテ物貨ノ運送物品ノ賣買
繁昌ナリ。

○濱

陸地ノ長ク海ニ浴ビタル所ヲ濱ト云
フ多クハ海水浅クシテ船ヲ泊スル能

ハズト雖魚漁ヲナスニ便ナル所アリ。

○燈臺

岬頭或ハ港灣等ノ地ニ建設シ夜間火
ヲ點スルモノヲ燈臺ト云フ船舶ノ海
上ヲ航行スルニ當リ輒ク其方向ヲ知
ラシムルノ便ニ供ス。

○石炭

石炭ハ礦坑ヨリ採掘ス其質堅クヨク
燃ユ汽車汽船等ハ蒸氣機械ヲ運轉ス
ル皆石炭ノ効ニアラザルハナシ。

○通運

遠地ニ居住スル人ニ物貨ヲ送ラント
スルモノ、依托ヲ請ケ運送ノ業ヲ營
ム會社ヲ通運ト云フ大ニ世上ニ便益

アリ。

○馬車

車上ニ人ヲ乗セ馬ヲシテ牽カシムル
モノ之ヲ馬車ト云フ其走ルコト速カ
ナルヲ以旅行ヲナスニ便利ナリ。

○人力車

車上ニ人ヲ乗セ人ノ之ヲ牽クヲ人力

選小集作外全書 卷之八 九

車ト云フ其製一人乗リ二人乗リノ別
アリ皆旅行ヲナスニ便アリテ且通常
歩行スルヨリ速カナリ。

○瀛車

人ヲ乗セ荷物ヲ積ミ蒸氣ノ力ヲ以車
ヲ運轉シ鐵軌ノ上ヲ行クモノ之ヲ瀛
車ト云フ其走ルコト甚速カニシテ實

ニ之ニ及ブモノナシ。

口上書類第十五

○開店をおぼしめる口上

先日未終之由に配を掛けたる物を
物も仕入者様より思ふお怒ひも
射移る何れより并に店員も
度就く尚ほ上へ参りて心添へ
下

新小集作外全書 卷之八 九

○敬神講別の口上

此頃を候に奉暖申儀一今日殊に
外天壽の宮に候に百々後之時より
久し河山をへ山回道敷お仕候に
はるまじもまじたりお時刻お申儀
とまじつづく作先右左同上以上。

○神社奉養講別の口上

昨日に候に神社奉典殊に海御
もつとて趣むる是れも奉養候に及
就るに奉前申九時より山回道敷
及申候に申候に申候に申候に。

○博覧會見物講別の口上

豫て申及候に奉前申候に申候に
海御の申候に申候に申候に申候に。

年、種々珍愛せしむ有るに、
來る何日、山向ひ一覽仕ふ事、
まはせし我、此左、此向、上、
類、有。

口上書類第十七

○散歩誘引の返事
お誘ひ傳へ、まはせ、
三日より、何山、
へ、散歩の成る、まはせ、
中、誘ひ、
被下

有る、た、く、何、仰、
お、今、日、
宣、
私、
此、
此、
此、

○神社参拝誘引の返事
お、
何、
何、
何、

此厚情を承り仰 此の如き仕度
就く多分十時頃迄迄と申す
有らば宜しと及ぬは返り申す也。

○増寛金鑄引の返り

京都博覧會の時より一斗場を渡
殊に珍貴物品多分有る趣を以
誘引するに謝り候所も豫て希望

及此の如き有るは此の如き仕度
有らば宜しと及ぬは返り申す也。

日用書類第六

○旅中宿定を扱ふ文

春假りの候は家内此様 承り候所
次之承り申す事申すは宜しと申す
し候所を承り申すは宜しと申す

用より大概ある方付は有りて何れも
吾等定めの後には自山取志とて及ぬ
相面萬話より述出の上。

○旅中留定の延引を報する文

折成の候に來りし何れも出發留定に付
中より多く變事用殊に可なり有り
当はよと用も亦御り可なり有る。

何れも頃出費留定可致見以て此後
省可取方と云ふは段更に此程
中より多く。

○菊園の開園を報する文

秋は佳き候に安き山奥の康にありて
相及り候に豫に手化し菊花は
頃際より可なり初の時今更に福植は

有近日中一免と申す此所
以程り上り子と有具。

○学校新築益成を程りて文

寸楮本屋仕作借富村何と尋常
小学校舎先般末新築より
中々と安昨日愈益成仕を元之費之
故も多分寄付有し作り自建

築向たり元分三七米中及先
我志りとも書かぬ顔より正行不宣。

日用書類第七

○学校新築費の何と云ふ事

如る文

一書おき得いせり何と尋常
小学校舎新築の事候趣

市町村教育行政の批答より随ての随業
あるは、市町村教育行政の随業
分買入の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業

日用書類第八

○学校新築費交付の手續を以て
ねらまう返事

市町村教育行政の批答より随ての随業
あるは、市町村教育行政の随業
分買入の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業
随業の随業、随業の随業、随業の随業

とて上へ交へて拜復。

○海部校司の正體を尋ねられ

一返事一

此書海部校司の正體を尋ねられ

一返事一

成り遂げられたる御事

一返事一

扱ひ下すむ私方をも毎々同席に

一返事一

上作也。

○錦也の景況を尋ねられ一返事

仰の如く進み私方にも向ひて

此家内は母の如く一返事

此の本年錦也の如く一返事

り此等之殊、時令順意、
其有定て充分に作柄、
法承志、
ト上ノ事也。

日用書類第九

○物不送狀

記

印紙

一大豆拾石

此代金何程

但石名何程

一蠶豆貳拾石

此代金何程

但石名何程

水之約定、

此代金何程

其有定て充分に作柄、
法承志、
ト上ノ事也。

下作也。

選川學作文全書 卷之八 年久米堂記

年月日

何誰 印

何誰及

○物不壹渡証書

印紙

印

一壹米五拾石 揚澤米

以代金の系 但し石手何事

方主米証載り代金系壹渡証書

實証也就この月何の限り現不

亦事この五渡の後の壹渡証書併

年月日 壹渡人

何誰 印

何誰及

○物品願り証

証

新小學作文全書 卷之八 年久米堂記

選入學作又全書
卷之六
何誰後

并借取「誰」字下請人
并之「何」字下請人
書印

年月日

借用之
何誰
印 印

何誰後

日用書類第十

○はかき認方

何府縣何國何町村
第何番地

何誰後



郵便はかき

此表面に宿野姓
名を限り認むべし

新編
何誰後

○素蘭の送付を催はる文

先般申約定下置片素蘭
何日何より相付て置る事
成其旨何日迄申候に對し
取らせん事申候事候に
此後申付候也

年月日
何府縣何郡區何所村
身何番地
何誰

裏

○素書上書

表

何府縣何郡區何所村
身何番地
何誰
後

切手

切手ハ此所ニ帖ルベシ

裏

織

何府縣何郡區何所村
身何番地
何誰

年月日

K120.8

新小學作文全書卷八終

作文卷之六七八與附

明治廿一年十一月十日印刷
同 年十一月廿日出版

定價金六錢

發行所
印刷者

兵庫縣神戶區濱宇治野町三拾三番地
熊谷幸介

著作者

伊藤直道

神戶港相生橋東

發兌

熊谷久榮堂

大阪心齋橋筋伏見町北五丁目

書肆

全支店

